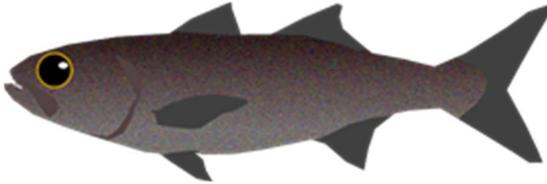


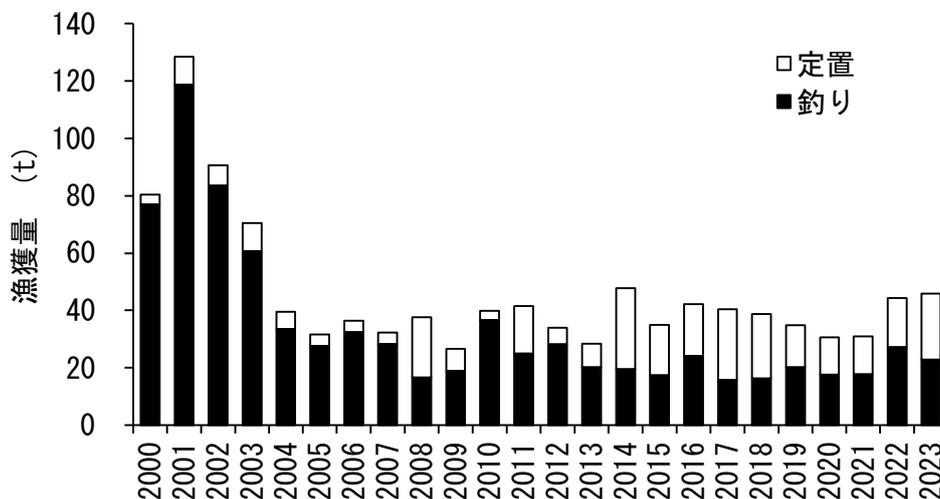
千葉県 沿岸重要水産資源 令和6年度漁獲動向

ムツ・クロムツ



- ・ 漁獲のほとんどが釣り漁業か定置網漁業によるものである。
- ・ 釣りによる漁獲物は大型の成魚主体。
- ・ 定置網による漁獲物は小型の未成魚。
- ・ 千葉県海域では、標準和名ムツとクロムツの2種が同所的に生息し、市場での種判別は困難であることからムツ類として水揚げされている。
- ・ 太平洋側における生態的知見がある。

漁獲量



主要港における漁業種類別漁獲量の経年変化（千葉県資料）

釣り：主要10港（銚子、新勝浦市、小湊、鴨川、太海、天津、和田、千倉、船形、勝山）

定置網：主要6港（新勝浦市、鴨川、和田、千倉、船形、勝山）

*新勝浦市には複数漁港が含まれるが1漁港として計数した。

*内房地区の漁獲には島回りの漁獲物も含まれている。

- ・ 千葉県では、主に釣り漁業で大型魚（成魚）、定置網で小型魚（幼魚）が漁獲される。
- ・ 漁業現場で「むつ」もしくは「黒むつ」と呼ばれている中には、ムツとクロムツの2種があり、外見での判別は極めて困難である（側線有孔鱗数の計数が必要）。
- ・ 上記の主要港漁獲量は、「ムツ」「クロムツ」「ムツ類」を対象に集計した。
- ・ 主要港におけるムツ類漁獲量は、2001年に約130tを記録した後、4年で約30tに減少し、2005～2013年ごろまで30t前後で推移した。その後、釣りによる漁獲量は20t前後、定置網による漁獲は10～30tの間で変動している。

備考

- ・ 千葉県では、定置網で漁獲される幼魚は、2種の分布特性からムツである可能性が高いが、確認されていない。また、釣りで漁獲される成魚では、2種の分布域が重なっているため、漁獲量統計には2種が混在している。